

<平成26年度秋季大会ミニシンポジウム>

水産物におけるゲノム編集の現状と展望

日時・場所：平成26年 9月19日（金）9：00～12：00・（大会実施委員会にて記入します）

企画責任者：松山倫也（九大院農）・吉崎悟朗（海洋大）・木下政人（京大院農）

9:00～ 9:05 開会の挨拶

松山倫也（九大院農）

座長 岡本裕之（水研セ増養殖研）

9:05～ 9:30 1. ゲノム編集の概念と技術の現状

中村崇裕（九大院農）

9:30～ 9:55 2. 水産・医薬モデルメダカの作出

木下政人（京大院農）

9:55～10:20 3. 不妊魚作出とゲノム編集技術

吉崎悟朗（海洋大）

座長 木下政人（京大院農）

10:20～10:45 4. カタクチイワシの飼育系とゲノム編集

坂口圭史（九大院農）

10:45～11:10 5. ゲノム編集によるトラフグの育種戦略

岡本裕之（水研セ増養殖研）

11:10～11:35 6. 農林水産分野におけるゲノム編集のガイドライン

生田和正（水産庁）

11:35～11:55 総合討論

座長 松山倫也（九大院農）

11:55～12:00 閉会の挨拶

吉崎悟朗（海洋大）

企画の趣旨

近年、設計可能な人工制限酵素を用いて、ゲノム上の特定の遺伝子を選択して破壊したり、標識遺伝子を導入するゲノム編集技術が開発された。この技術は様々な生物に応用可能な次世代の遺伝子改変技術として注目されており、既にメダカやゼブラフィ

ッシュ等での成功例も報告されている。本シンポジウムでは、今後、急速な進展が予想される水産におけるゲノム編集の最新の研究内容を紹介、整理するとともに、その将来展開について論議する。